

令和3年度病害虫発生予報第2号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち） イネミズゾウムシ	並 やや多	並 やや多
トマト	コナジラミ類（防除情報第4号）	やや多	やや多
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） ハダニ類（防除情報第5号）	並 並 多	並 やや多 多
アスパラガス	アザミウマ類（注意報第1号）	多	多
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 やや多 — 並 並 —	やや多 やや多 やや多 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ ナシヒメシンクイ	並 少 並 並	やや多 やや少 並 並
なし	黒星病 アブラムシ類	やや少 並	並 並
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ	やや少 並 少 やや多 並 やや少 やや多	並 並 少 やや多 並 やや少 やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（37筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

- イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

2. イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 5月前期の巡回調査（37筆）の結果、食害株率は11.1%（5.3%）、食害発生圃場率は62.2%（38.3%）、株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であり、一部多発圃場がみられた。
- イ 5月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、食害株率は32.0%（36.8%）、成虫の寄生株率は2.0%（3.0%）、株当たり寄生成虫数は0.0頭（0.0頭）であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
- 食害の発生が多い圃場では、生育抑制や幼虫による根の食害の恐れがあるので薬剤散布を行う。

トマト

1. コナジラミ類

令和3年5月18日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**による。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- 5月前期の巡回調査（27筆）の結果、発生株率は3.3%（0.5%）、発生圃場率は7.4%（3.2%）であり、一部多発圃場が見られた。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 5月前期の巡回調査（27筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ 病害虫防除所への診断依頼では、5月17日持ち込み分のランナーにおいて発生が認められた。
- ウ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は多い見込みであり、本病の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床及び周囲の除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- イ 雨よけ育苗施設を有する圃場は積極的に被覆を行い、降雨等による病原菌の跳ね上がりを防止する。
- ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗も処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しないで処分する。
- エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤ローテーション防除する。

3. ハダニ類

令和3年5月18日付け**病害虫発生予察防除情報第5号**による。

アスパラガス

1. アザミウマ類

令和3年5月18日付け**病害虫発生予察注意報第1号**による。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は8.3%（2.4%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

2. かいよう病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.4%（0.0%）、発生圃場率は27.8%（0.7%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

発病枝や葉は伝染源となるのでできるだけ除去する。

3. 黒点病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 落弁期以降、幼果期の初期から感染が始まる。気象の推移に留意し、予防を念頭に薬剤散布を実施する。

イ 枯れ枝は伝染源となるので見つけ次第除去し、圃場外へ持ち出す。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は2.1%（2.2%）、発生圃場率は25.0%（28.9%）であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している（図）。

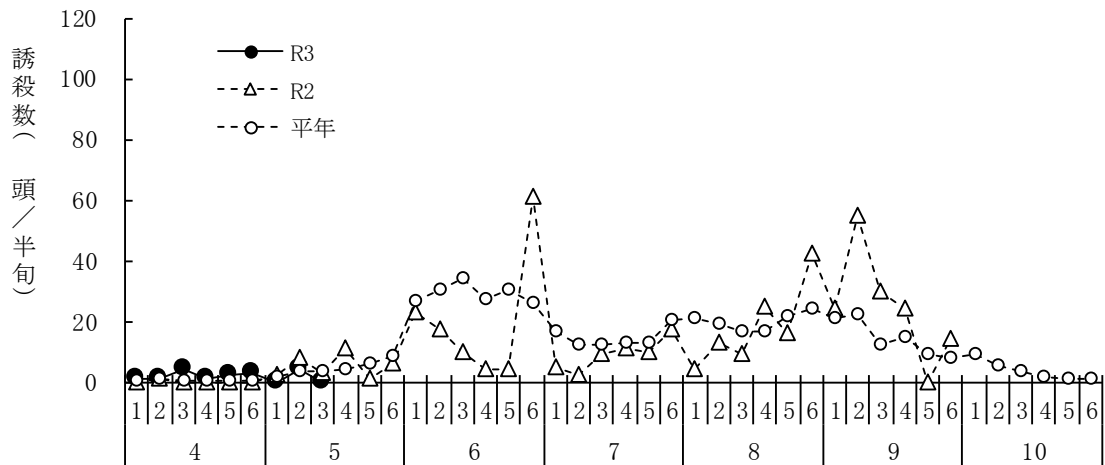


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2～3世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	口之津	平戸
第2世代	5/23	5/26	5/27	6/7
〃 (平年)	6/9	6/16	6/16	6/22
〃 (前年)	6/3	6/4	6/11	6/13
第3世代	6/18	6/21	6/21	7/3
〃 (平年)	7/1	7/7	7/9	7/14
〃 (前年)	6/24	6/26	7/4	7/7
標高(m)	27	4	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。
なお、5月16日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

イ 表の発生ピーク予測日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

ウ 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

エ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

令和2年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査(15筆)の結果、ヤノネカイガラムシの寄生果は認めなかった(0.1%)。

(3) 防除上注意すべき事項

下表に示した初発生予測に基づき、使用する薬剤に応じて適期に防除する。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測日

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生予測日	4/28	5/2	4/29	5/1	5/5	4/29	5/3	5/3	4/29	5/3	5/4	5/7
前年予測日	5/2	5/4	5/4	5/3	5/3	5/3	5/5	5/5	5/2	5/5	5/9	5/8
IGR剤防除日	5/23	5/27	5/24	5/26	5/30	5/24	5/28	5/28	5/24	5/28	5/29	6/1
有機リン剤防除日	6/7	6/11	6/8	6/10	6/14	6/8	6/12	6/12	6/8	6/12	6/13	6/16
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1:方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2:初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日～4月30日)を用いて算出し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3:同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.1%(0.1%)、発生圃場率は10.0%(8.8%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

2. 灰斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.3%、発生圃場率21.3%)。

イ 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 収穫終了後以降、せん定作業時の残渣、罹病した落葉は圃場外に持ち出し、園内の菌密度を低減する。

イ せん定後にカスガマイシン・銅水和剤を散布し、感染防止を図る。

3. ナシマルカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 有効積算温度に基づくシミュレーションの結果によると、露地びわにおける第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、県内各地で平年より10日程度早い(表)。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるナシマルカイガラムシ第1世代
1齢幼虫の本年の発生ピーク予測日

地点	長崎	口之津
発生ピーク予測日(本年)	5/15	5/18
〃 (前年)	5/26	5/28
〃 (平年)	5/26	5/28
標高(m)	27	10

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、5月16日までは観測値を、それ以降は平年値を用いた。

注2: 前年、平年の発生ピーク予測日はそれぞれ2020年、平年の気象庁アメダス観測値により算出した。

(3) 防除上注意すべき事項

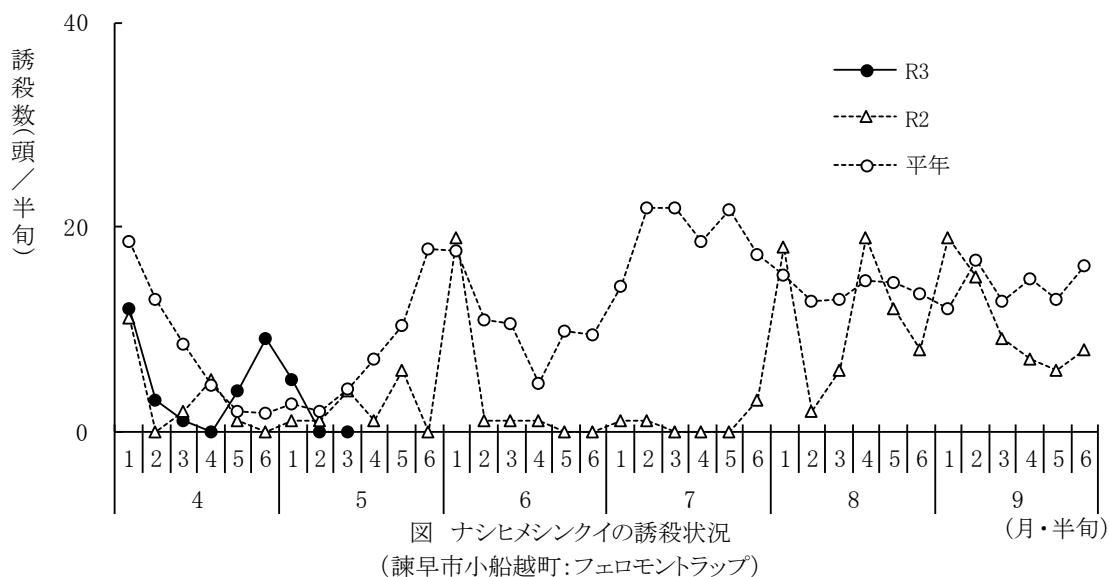
- ア 防除適期は第1世代1齢幼虫の発生ピークであるが、露地びわの収穫時期が重なるため、発生園では収穫終了後に速やかに防除する。
- イ 防除薬剤のうち、昆虫成長制御（IGR）剤は齢期の進んだ幼虫に対しては効果が劣るので、散布時期を逸しないよう注意する。また、マシン油乳剤は高温時の散布では薬害を生じることがあるので注意する。
- ウ 樹冠内部の枝や幹に薬液がかかるように十分量を散布する。
- エ 同一地域内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なるため、発生時期が予測日と前後する場合があるので注意する。

4. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。
- イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、平年並で推移している（図）。



なし

1. 黒星病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.2%（0.4%）、発生圃場率は8.3%（19.6%）であった。果実では発病果率は0.0%（0.2%）、発生圃場率は16.7%（19.6%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病した果そう基部、葉、果実は伝染源になるため、見つけ次第園外に持ち出し、埋没等の処分を行う。

イ 降雨により伝染するので、天候を見ながら適切に防除する。

ウ 薬剤散布に当たっては、かけむらがないよう十分量を散布し、薬液のかかりにくい園の周縁部には補完散布を行う。

エ 県内において、DMI（ステロール生合成阻害）剤に対する感受性が低下した地域が認められているため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P410～411の「作用機構による分類（FRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生新梢率は2.1%（1.5%）、発生圃場率は50.0%（28.1%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P412～413の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

フェロモントラップの誘殺量は、平年より少なく推移している（図）。

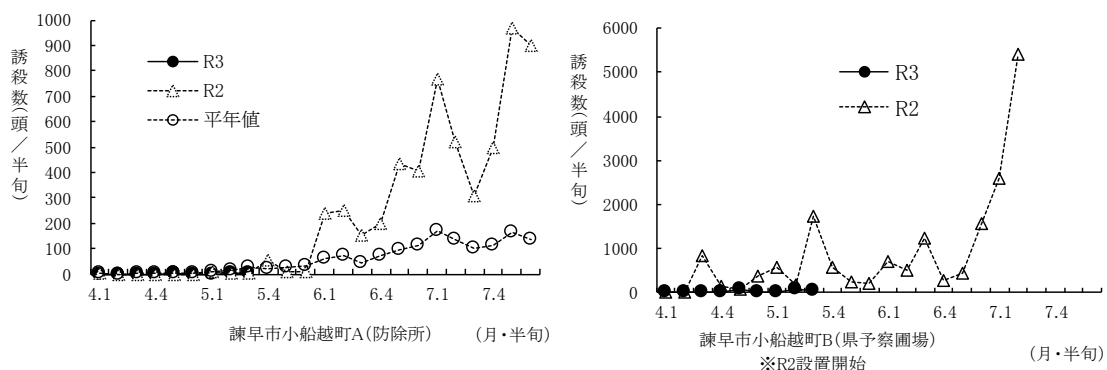


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉数0.0枚、発生圃場率1.3%）。

イ 向こう1か月の降水量は、平年より多い見込みであり本病の発生に好適である。

2. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率0.7%）。

イ フェロモントラップによる（農林技術開発センター茶業研究室調査）誘殺量は5か年平均値並で推移している（図）。

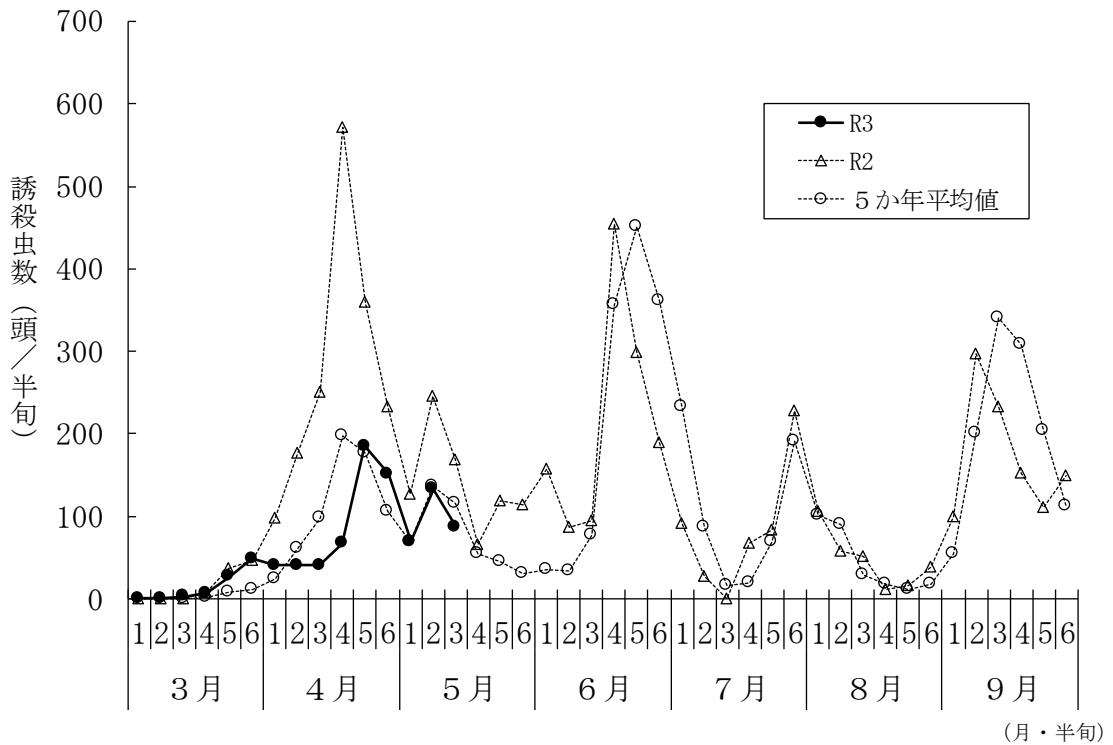


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

3. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率2.7%）。

イ フェロモントラップによる（農林技術開発センター茶業研究室調査）誘殺量は5か年平均値より少なく推移している（図）。

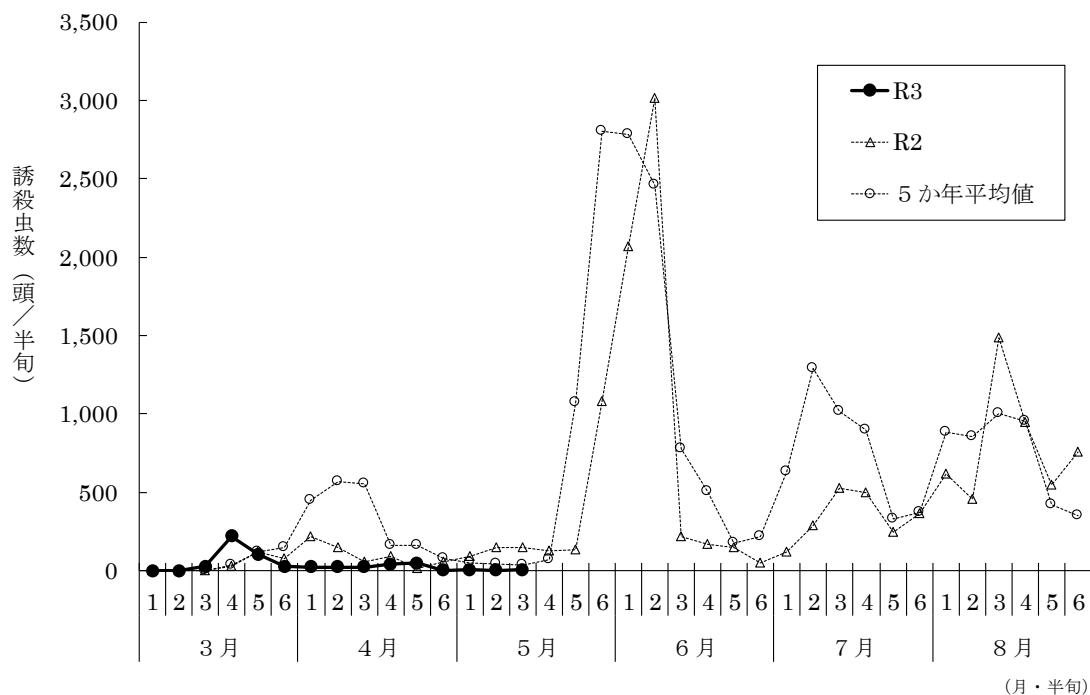


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は2.2頭（2.0頭）、発生圃場率は94.7%（52.5%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は0.4頭（7.1頭）、発生圃場率は37.5%（58.4%）であったが、一部多発圃場が見られた。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

6. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（19筆）の結果、発生を認めなかった（寄生株率4.7%、発生圃場率は31.0%）。

7. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は5.5%（1.9%）、発生圃場率は42.1%（27.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 二番茶の摘採時期が近付いているため、薬剤の使用基準（収穫前日数）に注意する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和3年長崎県病虫害防除基準 P430～433の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

【参考】

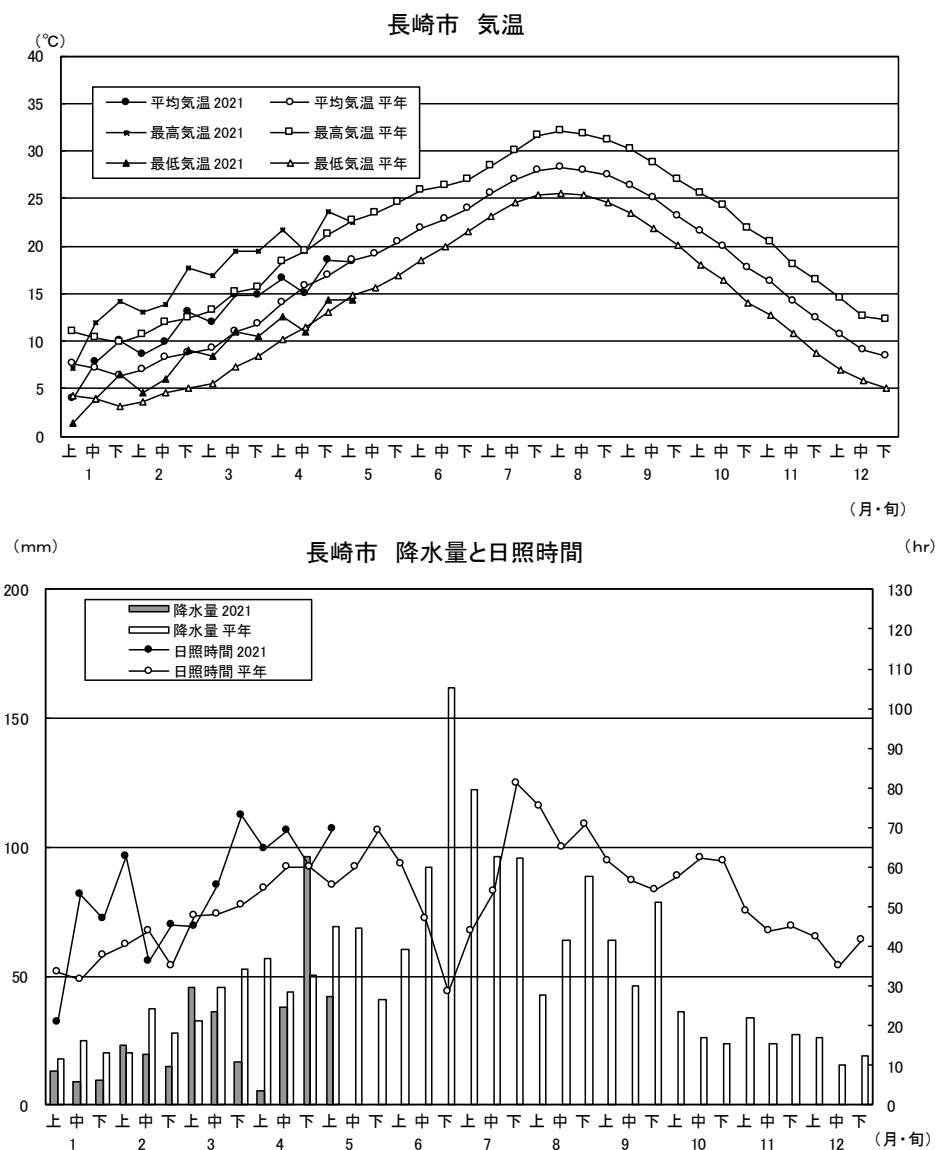
(令和3年5月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	20	70
降水量	10	30	60
日照時間	60	30	10

※予報対象地域：九州北部地域

令和3年の気象経過 (長崎地方气象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

